

なして外に膨出することは無い。(14) 陰茎は小さいし, baculum を欠いている。(15) 子宮はよく発達している。(16) 胎盤は円盤性である。

綜 合 討 論

問 1. 臀鰭軟条数の変異の分布状態が指示の地域につき相異はないか。2. 生長度に対する平均値が求められているか。3. 変異の原因を封鎖地域, 開放地域によるとするよりは発生時の水温の変異に関するような結果にはならないか。(松井佳一)

答 1. 何れの地点も二頂分布に近い変異を示して地域的相異は認められない。2. 体長 20mm 以下のものの平均値 18.14, 以上のものの平均値 17.42。3. 発生期間が長く, 水域が広く, 此の野外調査では水温の測定は出来なかつた。(福井時次郎)

問 研究材料の大きさはどの程度か。(原田五十吉)

答 体長 12mm 以上であるが尚性的未熟で雌雄区別の出来ない個体をも含む。(福井時次郎)

問 brackish の所に棲む個体で特別な変異が見られるか。1. 半鹹水の平均値如何。2. 水温との関係を考えるべきでないか。(加藤光次郎)

答 1. 河口の逆水門の下流で 17.43。2. 松井先生の場合と同じ。(福井時次郎)

形 態 学・原 生 動 物 学

(第 5 会場・第 2 日)

蚊の複眼の形態学的研究第 9 報 トワダオウカの複眼の発生及び構造について

佐 藤 正 三 (北学大・旭川分校)

トワダオウカは邦産蚊類中最大の種である。1950 年来, 青森県ポンジュ山及び十和田・八甲田地域より採集したトワダオウカの複眼を調べ次の結果を得た。1) 複眼の形成は 4 令幼虫の頃からはじまり, 蛹期になつてから黒色の色素粒を有するようになる。2) 1 個の複眼は 2000-2200 個の個眼から構成される。3) 各個眼の直径は部位によつて若干の差はあるが大約 25μ 位で, 他の蚊よりも特に大きい程ではない。4) 個眼の長さは $100-150\mu$ で, 他の種の蚊の個眼に比べて著しく細長い形をしている。これは虹彩部に比して網膜部が長いためであり, 従つて桿状体も亦著しく細長い。5) レンズと角膜の区別が明瞭でなく, 又個眼毎に角膜の周縁は黒色に染められている。6) 光環境の変化に伴つて個眼の構造が変るが, その中で顕著なのは, 他の種の蚊にみられるような桿状体移行よりも, むしろ桿状体の変形と虹彩色素の水平移動である。以上のことから, トワダオウカの複眼は, 蚊類の複眼の中では最も日中活動に適応した構造をもっているものと考えられる。

モンキチヨウ (♂) の鱗片について 平 田 国 雄・窪 田 友 幸 (鹿児島大・文理・生)

翅の黄色鱗片の色素粒と微細構造を電子顕微鏡により観察した。正常な鱗片と押潰した鱗片の色素粒を比較し, 前者の色素粒の形は, 主として色素粒の鱗片に附着する角度に支配され, 色素粒自体の形の差を示すものではないことを明かにした。切片も作成した。

次に色素粒を除いた黄色鱗片を材料とし, シヤドウイング, レプリカ, 破壊, 剥取り, 超薄切片等各種の方法により, 鱗片の微細構造を確かめ, その立体構造を図示した。